

豊中市教育保育環境ガイドライン 評価シート（幼児編）

| プロセス（過程）の質 評価の柱 | ねらい | 評価結果 | | | |
|--|---------------------------|------|----|-----|----|
| I 【空間と家具】 | | | | | |
| ① 日常のケア、遊び・学びのための教材・家具・備品 | 安心し、楽しく過ごす | くま | ぞう | きりん | 総合 |
| 【くま】*少人数（1人）のスペースは少ないように感じる 【きりん】*少人数で遊べるスペースがない *コーナーを作るスペースが限られているので、遊びを発展させていくことが難しい | | 4 | 4 | 3 | 4 |
| ② 遊びのための室内構成（1人2人のための空間・子どもに関する展示） | 気持ちの良い生活ができる | | | | |
| 【くま】*区切られたスペースが難しい所がある。また、ブロックなどを置いておく場所を確保する工夫をしていく 【ぞう】*1人や2人で楽しめるような、区切っているスペースを作っていく 【きりん】*少人数で遊べる空間があまり作れないが、仕切りやお城などの空間を作り遊べるようにはしている | | 4 | 3 | 2 | 3 |
| ③ 粗大運動遊びのための空間設備・備品（滑り台・三輪車など） | 適切な活動を選び身体を動かして充実感や満足感を得る | | | | |
| 【くま】*異なった遊びが同時に行われぬように使える時間を決めている（乳児クラスがいる時は使わないなど） 【ぞう】*鉄棒での待ち時間・滑り台での混雑がある 【きりん】*室内（だんだんホールの木登り・ホール）や戸外にも身体を動かして遊べるスペースがある *三輪車とボール遊びが互いに妨げにならないようなスペースはないので、コーナーを作ったり、区切って遊ぶ工夫はしている | | 4 | 3 | 4 | 4 |
| II 【養護個人的な日常のケア（生活の環境作り）】 | | | | | |
| ① 食育 | 食べる事を楽しむ | | | | |
| 【きりん】*アレルギー対応や伝統的な行事の際のメニューや郷土料理など、給食やおやつで提供され、楽しんで食べている *コロナ禍により、食事の会話や自分たちで育てた野菜でクッキングをすることが出来なかった *誕生児は誕生月に給食職員と一緒にクッキー作りをし、おやつの際に食べる取り組みはしている | | 4 | 4 | 4 | 4 |
| ② 排泄 | 自分で用を足せる | | | | |
| 【ぞう】*着替えを見られたくないと言う子どもに対しては、トイレの個室や物陰で着替えるようにしている 【きりん】*男児便器は仕切りがない為、誰からも見えてしまう（女児トイレは扉&カギがある） *手すり付きで少し広いスペースのあるトイレがある *5歳児は個々に排泄に行く為、排便後の後始末・排泄の仕方・手洗いなどの話はしているが、後始末の確認などが難しいところがある | | 4 | 4 | 3 | 4 |
| ③ 休息 | 身体を休めて休息の時間を過ごす | | | | |
| 【ぞう】*個別に休息をとることは難しい（個別に適した休息場所） 【きりん】*休息の場所・起きていたい子どもの場所はあるが、静かに過ごすという事が難しい部分があるので、工夫していきたい | | 4 | 4 | 3 | 4 |
| ④ 保健衛生 | 自分の身体を大切にすることを大切にする | | | | |
| 【くま】*眠たくない場合は、横になり身体を休めるよう伝えている 【きりん】*子ども達が遊んでいる場所・過ごしている場所は定期的に掃除しているが、細かなところは定期的には難しい | | 3 | 4 | 3 | 3 |
| ⑤ 安全 | 安全に気をつけて行動する | | | | |
| 【きりん】*月に一度、安全点検をしている *遊具の遊び方をイラストにして目で見てわかるようにすることも必要だと感じた | | 3 | 4 | 3 | 3 |

III 【言語と文字、思考力】

| | | | | | |
|---|---------------------------|---|---|---|---|
| ①語彙の拡大・思考力を育てる語り掛け | 未知の言葉と出会い話す楽しさを知る | | | | |
| 【くま】*手話・点字はない 【ぞう】*子どもが自主的に調べる方法としては、絵本&図鑑である 【きりん】*パソコンを使って調べたりしている。図鑑などが少ないので、もう少しあってもよいかと感じる *保育室の壁面に「あいうえお表」を貼ったり、図鑑を置くなどして、子ども自身が調べる事が出来る環境はある | | 4 | 3 | 1 | 3 |
| ②伝え合い・コミュニケーション（話し言葉の促進） | 好奇心を引き出し、言葉のやり取りを楽しむ | | | | |
| 【くま】*説明時には、言葉だけでなく絵や写真を用いて、理解しやすいようにしている *気持ち発表で1日を通しての気持ち（やったー！・うへ〜ん・ぶんぶん）とその理由を発表している *外国の言葉などに触れる教材などはないが、給食のメニューにより、その国のことについての話をしている 【ぞう】*英語の絵本はあるが活用はしていない *少数での活動があまり出来ていない 【きりん】*“今日の気持ち発表”をしている *クラスに障害児・多国籍のお子さんがいなかった為、意識が薄い部分があった。在籍の有無関係なく、意識を高めて保育をしていきたい | | 4 | 3 | 2 | 3 |
| ③絵本（印刷文字に親しむ環境） | 文字に出会い、絵本の楽しさ、探す・知る喜びを味わう | | | | |
| | | 4 | 4 | 2 | 3 |

IV 【活動（環境があるかどうか）】

| | | | | | |
|--|----------------------------|---|---|---|---|
| ①運動（粗大運動・身体を使う） | 身体を動かすさまざまな活動を十分に楽しむ | | | | |
| 【ぞう】*身体を動かすことに繋がる自然に近いものとして、室内に本物の木を利用した木登りがある 【きりん】*4・5歳児は休憩があるので、1時間以上遊べる時間はある | | 4 | 4 | 4 | 4 |
| ②運動（微細運動・手や指を使う） | 手や指を使い集中して遊ぶ | | | | |
| 【ぞう】*道具を自由に使うようにする事は安全上、難しいところがある *指先を使う玩具が必要と思われる 【きりん】*じっくりと時間を掛けて遊びを継続することが難しい *折り紙・画用紙・セロハンなど自由に使って遊べる環境を整えている。また、子ども自身で片づけやすいよう分けたり、使い方を必要に応じて伝えている | | 4 | 3 | 3 | 3 |
| ③造形 | 作ったり描いたりしてさまざまな表現を楽しむ | | | | |
| 【ぞう】*作った作品を置く棚を用意する必要があると思われる 【きりん】*用具はあるので、作るコーナーとしての場所の確保を工夫していきたい *花や虫などに触れる機会は作っていたので、製作などに繋げる機会をもう少し増やしていきたい *コロナ渦により、保護者の方の入室が出来ない為、展示物などを見てもらえる機会が難しい（写真に撮 | | 4 | 3 | 3 | 3 |
| ④音楽リズム | 感じたこと考えたことを音や動きで楽しむ | | | | |
| 【くま】*子ども達に尋ね、踊りたい曲などを流し楽しんでいる 【ぞう】*常時、保育室に楽器を置いている訳ではない為、楽器に触れる機会が少ない 【きりん】*楽器やCDはあるが、自由に使えるようにはなっていない | | 4 | 2 | 2 | 2 |
| ⑤ごっこ遊び | イメージを形にして楽しみ、友達と共有する | | | | |
| 【きりん】*コーナーを作ってはいるが壊れてしまっている箇所を子ども達と一緒にする事なども含め、時間の工夫をしていきたい *ごっこ遊びに必要な玩具がある物だけでなく、子ども達と相談しながら一緒に作っていく機会を多く設けていきたい | | 4 | 3 | 2 | 3 |
| ⑥積木 | 構成を楽しみ、思い表現し、友達と共有する | | | | |
| 【くま】*作ったものを継続して遊び続ける事は難しい（置いておく場所がない） | | 4 | 3 | 3 | 3 |
| ⑦砂・水 | 砂や水に触れ、感触遊びを楽しむ | | | | |
| | | 4 | 4 | 4 | 4 |
| ⑧自然・科学 | 自然に触れ、好奇心や探求心をもつ | | | | |
| 【ぞう】*科学あそびを取り入れてみたい 【きりん】*自然や科学についての知識をあまり持っていない為、学びの必要性を感じた | | 4 | 3 | 2 | 3 |
| ⑨算数・数 | 遊びや生活の中で数、量、形に親しみ数字の意味に気付く | | | | |
| 【ぞう】*重さを自由に計る為の道具を保育室に置いていない *教材はないが、遊びや生活の中で数や形に触れ合う | | 3 | 3 | 2 | 3 |
| ⑩ICTの活用 | テクノロジーで遊びや生活の幅を広げる | | | | |
| 【ぞう】*タブレットは大人が調べたものを子ども達が見るという形である | | 2 | 1 | 4 | 2 |
| ⑪多様性の受容 | 人と違うところや同じところがあることに気付く | | | | |
| 【くま】*取り組みがなかったように思う 【きりん】*給食メニューで多文化の食べ物の提供がある *保育室で、世界地図や絵本を通して話をする事はあったが、頻繁にはしていない | | 3 | 3 | 3 | 3 |

V 【相互関係】

| | | | | | |
|---|----------------------------|---|---|---|---|
| ①個別的な指導と学び（子ども理解と子ども理解の上立った保育者の関わり） | 一人ひとりの特性に応じた指導に支えられて学びに向かう | | | | |
| 【くま】*保護者にはクラスノートで伝えている 【ぞう】*子どもの内面の育ちは映像化はしていないが、言葉や図に示して共有している 【きりん】*クラスノートを利用し、保育風景の写真を載せ、またクラスだよりなどで、子どもの様子を記載し伝えている | | 4 | 4 | 4 | 4 |
| ②保育者と子どものやりとり（保育者と子どもの関係） | 子どもが尊重され、認められ、支えられる | | | | |
| 【きりん】*子どもを肯定的に受け止め、やりとりする事を意識はしているが、そうでない時もある | | 4 | 4 | 3 | 4 |
| ③子どもと子どものやり取り | 他の幼児の考えや感じ方に触れる | | | | |
| 【きりん】*子どもと関わる時は、気持ちに寄り添い、また肯定的に関わるようにしているが、子ども同士の関わりを見ていると、否定的に友だちの事を捉える姿・自分よりも友だちの行動が気になる子どもが多いように感じる | | 4 | 4 | 3 | 4 |
| ④望ましい態度・習慣の育成 | 自分でしなくてはならないことを自覚して行う | 4 | 3 | 3 | 3 |

VI【保育の構造（日課）】

| | | | | | |
|----------------------|---------------------------|---|---|---|---|
| ①1人1人が自由に遊びを選択して遊ぶ活動 | 活動を楽しむ中で、自分で考えたり、助けを得たりする | 4 | 4 | 3 | 4 |
| ②クラス集団で遊ぶ活動 | 他の幼児や保育者と親しみ合い、支え合う | 4 | 4 | 2 | 3 |
| ③障害のある子への配慮 | ともに育つ意識を持って支え合う | 4 | 4 | 2 | 3 |
| ④家庭に配慮を要する子どもへの関わり | 適切な対応や援助ができるように関わる | 4 | 3 | 3 | 3 |

総合評価

【くま】*遊び・生活の中での数字や量・形に親しみを有する物が少ないと感じた *ICTの活用もない *多様性・点字・手話を使う機会がない *多様性の取り組みがないので、園全体で講演（講師を依頼するなど）などを通し、取り組むことも必要かと思う *コロナ渦により、収穫したものをクッキングで使用するなどが出来なかった

【ぞう】*子どもが自由に出して遊ぶというコーナー作りをうまく作りきれなかったように感じるため、子ども達の自主性を活かせるコーナー作りを考えていきたい *玩具で作った作品を置いておく・作品を見てもらえる機会を作っていきたいと思った *子ども達が自由に素材や教材を提供することが難しい *遊びを継続できる場が少ないように感じたので、どうすれば継続しやすくなるかなどを考えていきたい *点字や外国について等に触れ合う機会が少ないので、どのような方法があるかなどを職員間でアイデアを出し合うなどしていきたい

【きりん】*1人、2人の為の空間を作ることが難しかったが、部屋の少しの空間を使いコーナーを作り、遊べる場所は確保出来たので良かった。ブロックで作った作品を展示できる様にコーナーも作っていたので、友だちの作品を見ながら真似をする子ども達の姿も見られた *活動では、子ども達のしたい事や興味のある事を見ながら取り入れて保育をしてきたので良かった *文字や数字など、伝える事が難しかった（絵本作り・部屋のカレンダーなどでは伝えられていた） *世界の事・多様性・多文化についてなど、クラスの活動で伝える事が難しかった

【ぞう・きりん】*午睡は子どもの気持ちを尊重し、休息をする・遊ぶ を自分で決めるようにしている